

防災 DX 研究会セミナー ～防災活動の最新動向を学ぶ～ 開催報告

開催日時：令和 6 年 11 月 12 日（火）14 時から 16 時 50 分

会場：埼玉大学研究機構棟 7 階大会議室

令和 6 年 11 月 12 日に、埼玉大学産学官連携協議会主催、埼玉大学社会変革センターレジリエント社会研究部門共催、自然災害研究協議会関東地区部会協賛で、「防災 DX 研究会セミナー ～防災活動の最新動向を学ぶ～」を開催した。

本セミナーでは、デジタルテクノロジーを活用した地域防災の取り組みや研究動向について、地域自治体の防災担当者や地元企業の皆様と情報共有し、地域防災の向上に貢献することを目指している。

今回は、防災 DX 事例紹介として、あいおいニッセイ同和損害保険株式会社の多嘉良朝恭様より「市民参加型防災のご提案」と題して、地域住民によるソーシャルネットワークへの投稿情報を様々な発災フェイズで活用する技術や事例について紹介頂いた。また MS&AD インターリスク総研株式会社の堀江啓様より「災害予測情報の活用に向けて」と題して、地域や社会の防災・減災を支援する WEB サービスの最新情報や災害予測情報の活用事例、災害被害推定システムとその活用に向けた話題提供を頂いた。埼玉大学からはレジリエント社会研究部門の堤田成政准教授より「人工衛星観測データをもちいた洪水新水域推定」と題した研究事例紹介があった。水害被害地域の迅速かつ正確な把握の実現に向けて、コンステレーション衛星観測網の実現を見据えた高頻度地球観測データ分析の先端技術と課題に関して説明を頂いた。

本セミナーは 34 名（学外 26 名、学内 8 名※スタッフ含む）のご参加をいただき、防災 DX に関する活発な質疑応答が展開された。アンケートでは、「自治体向けの被害認定向けのパッケージなど情報共有いただき、大変参考になりました」「最新の技術動向について、知識を得ることができた」「人脈形成できた」などと全体的に好評な感想を頂いた。一方で、内容が難しいというご意見なども頂いており、今後の運営に反映していきたい。また、今後はこうした防災 DX に関する情報共有セミナーのほか、地理情報システム等のツールの基本などが学べる機会も設ける所存である。

防災 DX 研究会代表

社会変革研究センター レジリエント社会研究部門長

理工学研究科教授 齊藤 正人